



2026年7月期 決算短信 (日本基準) (連結)

2026年9月4日

上場会社名 ティーライフ株式会社

上場取引所 東

コード番号 3172 URL <https://www.tealifeir.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西上 節也

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 齋藤 正和

TEL 0547-46-3459

定時株主総会開催予定日 2026年10月27日

配当支払開始予定日

2026年10月28日

有価証券報告書提出予定日 2026年10月23日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無 (動画配信のみ)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年7月期の連結業績 (2025年8月1日～2026年7月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年7月期	11,141	△3.1	311	△31.7	318	△29.8	223	△37.7
2025年7月期	11,502	△11.5	456	△17.2	453	△19.7	358	12.1

(注) 包括利益 2026年7月期 219百万円 (△31.9%) 2025年7月期 322百万円 (△2.8%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2026年7月期	52.34	—	3.5	3.7	2.8
2025年7月期	84.09	—	5.6	5.1	4.0

(参考) 持分法投資損益 2026年7月期 一百万円 2025年7月期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年7月期	8,612	6,509	75.6	1,523.27
2025年7月期	8,777	6,432	73.3	1,507.29

(参考) 自己資本 2026年7月期 6,509百万円 2025年7月期 6,432百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年7月期	87	△513	△249	1,955
2025年7月期	526	△544	△270	2,633

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2025年7月期	—	20.00	—	20.00	40.00	170	47.6	2.7
2026年7月期	—	15.00	—	15.00	30.00	149	66.8	2.3
2027年7月期(予想)	—	15.00	—	15.00	30.00		45.9	

3. 2027年7月期の連結業績予想 (2026年8月1日～2027年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,363	2.0	437	40.4	428	34.7	279	25.0	65.32

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更：無
新規 — 社（社名）、除外 — 社（社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
② ①以外の会計方針の変更：無
③ 会計上の見積りの変更：無
④ 修正再表示：無

3) 発行済株式数 (普通株式)				
① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年7月期	4,273,600 株	2025年7月期	4,267,900 株
② 期末自己株式数	2026年7月期	224 株	2025年7月期	224 株
③ 期中平均株式数	2026年7月期	4,271,627 株	2025年7月期	4,265,942 株

(参考) 個別業績の概要

2026年7月期の個別業績（2025年8月1日～2026年7月31日）

(1) 個別経営成績		(%表示は対前期増減率)						
	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年7月期	5,049	14.4	△5	△103.3	109	△65.6	44	△90.2
2025年7月期	4,412	7.2	171	207.1	317	26.4	454	98.3

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2026年7月期	10.39	—
2025年7月期	106.61	—

(2) 個別財政状態		総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
		百万円	百万円	%	円 銭
2026年7月期		6,618	4,964	75.0	1,161.69
2025年7月期		7,024	5,063	72.1	1,186.52

(参考) 自己資本 2026年7月期 4,964百万円 2025年7月期 5,063百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

(決算説明資料及び決算説明会の開催について)

決算説明資料は、本決算短信とあわせて当社ホームページに掲載しております。また、決算説明動画を当社ホームページにて配信する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(会計方針の変更)	13
(連結損益計算書関係)	13
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	16
(重要な後発事象)	16

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、緩やかな回復基調で推移したものの、海外経済の不透明感や物価上昇の影響により、回復の勢いは限定的となりました。賃上げなどを背景に雇用・所得環境の改善がみられた一方、継続する物価高により、個人消費は力強さを欠く状況が続きました。また、中東情勢や米国の通商政策の動向などを背景に、先行き不透明な状況が続いております。

卸・小売業界におきましては、物価上昇の長期化により消費者の節約志向が続き、消費マインドの本格的な回復には至らず、事業環境は引き続き不透明な状況にあります。

このような経済環境のなか、当社グループは安定的かつ継続的な成長と企業価値の向上を目指し、美と健康を通じ豊かな生活をサポートする企業として、「Mastering Today, Shaping Our Future!」「今日を極め、未来を創る」をスローガンとした中期経営計画の達成に向け、各事業の拡大及び利益確保に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度における売上高は11,141百万円(前年同期比3.1%減)となりました。

損益面では、営業利益は311百万円(同31.7%減)、経常利益は318百万円(同29.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は223百万円(同37.7%減)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、売上高については、セグメント間取引の調整後の数値であり、セグメント利益については、セグメント間取引の調整前の数値であります。

(ウェルネス事業)

ウェルネス事業では、テレビショッピング向けの卸販売では既存主力商品の拡販に注力したほか、新商品の開発に取り組みました。実店舗向け卸販売ではキッチン系商品やギフト系新商品の拡販を推進しました。カタログ通販においては、顧客開拓の効率改善と販促規模の適正化を進めたほか、原料コスト上昇分の価格転嫁を実施する等、収益改善に注力しました。国内及び海外E C事業では運営コストの最適化や、オリジナル商品の拡充と在庫金額の適正化に努めました。また、海外で人気を高めている抹茶や日本製食品の輸出に関し、仕入先・販売先の開拓を進めました。

一方で、テレビショッピングの伸長鈍化、カタログ通販市場全般の縮小及びE Cモールの競合出店社数の増加に伴う競争の激化、さらには米国の輸入貨物に対するデミニマスルール（非課税基準額）の廃止や関税の引上げなどの要因により、売上高10,189百万円（前年同期比3.6%減）、利益面では、原材料費・配送費などのコストプッシュ要因、さらには米国市場への先行投資に伴う経費負担により、セグメント利益127百万円（同52.3%減）となりました。

(ロジスティクス事業)

ロジスティクス事業では、袋井センター・掛川センター・名古屋センターの稼働率改善と顧客開拓営業に注力した結果、売上高は952百万円(前年同期比2.7%増)、利益面では効率を重視したセンター運営による人件費圧縮のほか、光熱費等のコストプッシュ分の価格転嫁を進めましたが、名古屋センターの資産除却債務を計上したことにより、セグメント利益は184百万円(同2.8%減)となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当連結会計年度末の資産合計は、8,612百万円(前連結会計年度末比165百万円減)となりました。

流動資産の増加(同6百万円増)は、主に売掛金が107百万円、商品及び製品が44百万円等増加したものの、現金及び預金が175百万円等減少したことによるものであります。

固定資産の減少(同162百万円減)は、主に土地が42百万円、長期繰延税金資産が55百万円増加したものの、投資有価証券が100百万円、のれんが45百万円等減少したことによるものであります。

(負債)

当連結会計年度末の負債合計は、2,102百万円(前連結会計年度末比242百万円減)となりました。

流動負債の増加(同556百万円増)は、主に1年内返済予定の長期借入金が491百万円、買掛金が104百万円増加したものの、未払法人税等が47百万円減少したことによるものであります。

固定負債の減少(同798百万円減)は、主に長期借入金が流動負債への振替等により591百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産合計は、6,509百万円(前連結会計年度末比76百万円増)となり、この結果、自己資本比率は75.6%となりました。

純資産の増加は、主に利益剰余金が74百万円増加したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末に比べ678百万円減少し、1,955百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、87百万円(前年同期比83.5%減)となりました。

これは、主に税金等調整前当期純利益284百万円があったものの、法人税等の支払168百万円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、513百万円(前年同期比5.7%減)となりました。

これは、主に定期預金の払戻による収入1,600百万円、有価証券の償還による収入129百万円等があったものの、定期預金の預入による支出2,100百万円、有形固定資産の取得による支出113百万円、投資有価証券の取得による支出59百万円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、249百万円(前年同期比7.8%減)となりました。

これは、主に配当金の支払額149百万円、長期借入金の返済による支出99百万円があったことによるものであります。

(4) 今後の見通し

海外経済や物価上昇の懸念はあるものの、緩やかな景気回復傾向が続く事が予想される中、当社グループは、2025年8月から2028年7月までの3期における中期経営計画を策定。「Mastering Today, Shaping Our Future〜今日を極め、未来を創る」をスローガンとし、本期間を「未来の成長に向けた土台づくり」と位置づけ、更なる成長と長期的な企業価値の向上を目指し、当計画に掲げる3つの戦略に基づき積極的な事業展開を推進してまいります。

(既存事業の進化)

事業ごとの差別化ポイントの明確化、価値提供型へのシフト、市場や業界のモニタリングを行う事で競争力の強化を図り、消費環境の変化や急成長したEC市場の競争に対応するため、既存顧客との関係強化、顧客開拓戦略の見直しと強化、リピート率向上施策に取り組む事で顧客基盤の維持・拡大を目指します。また業務プロセスの見直しと改善、デジタル化の推進に努め、業務の効率化と生産性向上を図り、既存事業の更なる進化を進めてまいります。

(新収益モデルの構築)

ロジスティクス事業では、名古屋センターが定期建物賃貸借契約満了となる事から、新たな収益源となる案件の模索等を推進してまいります。またM&Aについては、見込まれるシナジーや目的、実行後のPMI設計まで明確化し、将来のグループの中核となる事業の獲得を目指します。現在推進している北米を中心とした海外事業に関しては、関税政策などの輸出に関する環境の変化が収束するまで、最小限の運用により機会を探ってまいります。なお新事業への投資は、成長性・実効性で適正に判断してまいります。

(強固な経営基盤の構築)

DX推進・AI活用による業務改善・生産性の向上に努めるほか、部門・グループ間の業務や情報のボトルネック解消、グループ横断的な視野で人材育成と組織構造の最適化、一貫した組織風土の醸成に向けた改革を実施し、より強固な経営基盤を構築してまいります。併せて、コンプライアンスの徹底や情報セキュリティ等のリスク管理体制強化により、社会からの要請やステークホルダーの期待に応えられるよう努めてまいります。

これらの状況を勘案したうえで、2027年7月期の連結業績見通しにつきましては、売上高は11,363百万円（前期比2.0%増）、営業利益は437百万円（前期比40.4%増）、経常利益は428百万円（前期比34.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は279百万円（前期比25.0%増）を見込んでおり、定期建物賃貸借契約の満了となる名古屋センターの閉鎖影響を織込んでおります。

業績予想については、今後の為替・金利の動向といった経済動向からの変化により業績は大きく変動する可能性があります。業績予想の修正の必要性が生じた場合は、速やかに開示いたします。

(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループは、株主への利益還元を経営の重要な課題と位置づけており、企業体質の強化及び今後の事業拡大のための内部留保の充実を勘案しつつ、連結配当性向30%を目途に、每期安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

当期の配当につきましては、株主の皆様への利益還元の機会を充実させるため、中間配当金としては、1株当たり15円を実施いたしました。期末配当金につきましては、1株当たり15円とし、年間配当金を1株当たり30円とさせていただく予定であります。

なお、内部留保金につきましては、ウェルネス事業における独自商品の研究・開発及び海外市場の販路開拓、ロジスティクス事業における収益不動産の取得、グループシナジーを生み出す戦略的M&Aの実施等、長期的な成長を支える事業拡大や企業価値向上のための投資資金として、適切に活用してまいります。

また、次期の配当につきましては、次期の連結業績見通し及び上記基本方針を勘案し、1株当たり中間配当金15円、期末配当金15円の年間配当金30円を予定しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年7月31日)	当連結会計年度 (2026年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,016	2,841
受取手形	11	2
売掛金	745	852
有価証券	100	127
商品及び製品	760	804
仕掛品	65	78
原材料及び貯蔵品	88	66
その他	189	209
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	4,970	4,977
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	629	597
機械装置及び運搬具（純額）	65	49
土地	2,429	2,472
その他（純額）	25	20
有形固定資産合計	3,149	3,139
無形固定資産		
のれん	140	94
その他	72	34
無形固定資産合計	212	128
投資その他の資産		
投資有価証券	182	82
繰延税金資産	78	134
その他	175	151
貸倒引当金	△0	△1
投資その他の資産合計	436	366
固定資産合計	3,797	3,634
繰延資産	8	0
資産合計	8,777	8,612

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年7月31日)	当連結会計年度 (2026年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	384	489
1年内返済予定の長期借入金	99	591
未払金	282	335
未払法人税等	81	34
契約負債	29	23
賞与引当金	50	40
役員賞与引当金	7	-
その他	160	138
流動負債合計	1,097	1,653
固定負債		
長期借入金	819	227
退職給付に係る負債	85	93
資産除去債務	72	73
その他	269	54
固定負債合計	1,247	449
負債合計	2,344	2,102
純資産の部		
株主資本		
資本金	368	371
資本剰余金	337	340
利益剰余金	5,725	5,799
自己株式	△0	△0
株主資本合計	6,430	6,511
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	△1
為替換算調整勘定	0	△0
その他の包括利益累計額合計	1	△2
純資産合計	6,432	6,509
負債純資産合計	8,777	8,612

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年8月1日 至 2025年7月31日)	当連結会計年度 (自 2025年8月1日 至 2026年7月31日)
売上高	11,502	11,141
売上原価	7,380	7,063
売上総利益	4,121	4,078
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	1,066	1,077
荷造運搬費	507	608
貸倒引当金繰入額	△0	1
役員報酬	117	100
給料及び手当	665	665
賞与引当金繰入額	41	40
役員賞与引当金繰入額	7	—
退職給付費用	23	25
その他	1,236	1,245
販売費及び一般管理費合計	3,665	3,766
営業利益	456	311
営業外収益		
受取利息	5	16
受取配当金	0	0
その他	9	5
営業外収益合計	15	22
営業外費用		
支払利息	4	4
為替差損	10	5
創立費償却	2	1
貸倒引当金繰入額	—	0
その他	1	3
営業外費用合計	19	16
経常利益	453	318
特別利益		
固定資産売却益	0	6
投資有価証券売却益	46	1
補助金収入	3	—
特別利益合計	50	8
特別損失		
固定資産除却損	6	1
減損損失	—	38
補助金返還額	—	1
特別損失合計	6	41
税金等調整前当期純利益	496	284
法人税、住民税及び事業税	177	115
法人税等調整額	△39	△54
法人税等合計	137	61
当期純利益	358	223
親会社株主に帰属する当期純利益	358	223

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年8月1日 至 2025年7月31日)	当連結会計年度 (自 2025年8月1日 至 2026年7月31日)
当期純利益	358	223
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△35	△1
為替換算調整勘定	△0	△1
その他の包括利益合計	△35	△3
包括利益	322	219
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	322	219
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2024年8月1日 至 2025年7月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	364	334	5,549	△0	6,248
当期変動額					
新株の発行	3	3			6
剰余金の配当			△170		△170
親会社株主に帰属する当期純利益			358		358
自己株式の取得				△0	△0
連結範囲の変動			△12		△12
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	3	3	175	△0	182
当期末残高	368	337	5,725	△0	6,430

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	36	0	37	6,286
当期変動額				
新株の発行				6
剰余金の配当				△170
親会社株主に帰属する当期純利益				358
自己株式の取得				△0
連結範囲の変動				△12
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△35	△0	△35	△35
当期変動額合計	△35	△0	△35	146
当期末残高	0	0	1	6,432

当連結会計年度(自 2025年8月1日 至 2026年7月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	368	337	5,725	△0	6,430
当期変動額					
新株の発行	3	3			6
剰余金の配当			△149		△149
親会社株主に帰属する当期純利益			223		223
自己株式の取得				—	—
連結範囲の変動			—		—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	3	3	74	—	80
当期末残高	371	340	5,799	△0	6,511

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	0	0	1	6,432
当期変動額				
新株の発行				6
剰余金の配当				△149
親会社株主に帰属する当期純利益				223
自己株式の取得				—
連結範囲の変動				—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△1	△1	△3	△3
当期変動額合計	△1	△1	△3	76
当期末残高	△1	△0	△2	6,509

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年8月1日 至 2025年7月31日)	当連結会計年度 (自 2025年8月1日 至 2026年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	496	284
減価償却費	113	115
減損損失	—	38
のれん償却額	52	31
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	2	△9
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	4	△7
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△1	7
受取利息及び受取配当金	△6	△16
為替差損益 (△は益)	10	5
支払利息	4	4
有形固定資産売却損益 (△は益)	△0	△6
投資有価証券売却損益 (△は益)	△46	△1
補助金収入	△3	—
固定資産除却損	6	1
売上債権の増減額 (△は増加)	260	△96
棚卸資産の増減額 (△は増加)	29	△36
仕入債務の増減額 (△は減少)	△225	104
未払金の増減額 (△は減少)	8	73
その他	△13	△249
小計	689	244
利息及び配当金の受取額	5	15
利息の支払額	△5	△5
補助金の受取額	3	—
法人税等の支払額	△166	△168
営業活動によるキャッシュ・フロー	526	87
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△415	△2,100
定期預金の払戻による収入	44	1,600
有価証券の償還による収入	—	129
有形固定資産の取得による支出	△27	△113
有形固定資産の売却による収入	0	14
無形固定資産の取得による支出	△29	△2
投資有価証券の取得による支出	△200	△59
投資有価証券の売却による収入	81	2
その他	2	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△544	△513
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△99	△99
配当金の支払額	△170	△149
その他	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△270	△249
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	△2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△298	△678
現金及び現金同等物の期首残高	2,932	2,633
現金及び現金同等物の期末残高	2,633	1,955

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(連結損益計算書関係)

減損損失

当連結会計年度において、親会社が保有するのれん・無形資産及び連結子会社に係る繰延資産（創立費・開業費）について、収益性の低下により減損損失38百万円を特別損失にて計上しております。

なお、内訳は以下のとおりであります。

(1) のれん	14百万円
(2) 無形資産	17百万円
(3) 繰延資産	6百万円
合計	38百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループでは、独立した経営単位である当社及び連結子会社が、当社グループの経営方針のもと、それぞれの事業における包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

当社グループは、当社並びに個々の連結子会社が営む各事業を最小単位とした事業セグメントから構成されており、また、経済的特徴及び商品・サービスの要素が概ね類似する複数の事業セグメントを集約し、「ウェルネス事業」及び「ロジスティクス事業」の2つを報告セグメントとしております。

「ウェルネス事業」では、主に健康茶、健康食品、化粧品、ベビー用品、キッズ家具を一般消費者に通信販売しているほか、生活雑貨を通信販売会社や小売店等に販売しております。

「ロジスティクス事業」では、主に自社不動産等を活用し、不動産賃貸及び出荷業務の受託を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報
前連結会計年度(自 2024年8月1日 至 2025年7月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	ウェルネス 事業	ロジスティクス 事業			
売上高					
顧客との契約から 生じる収益	10,574	251	10,825	—	10,825
その他の収益(注) 3	—	676	676	—	676
外部顧客への売上高	10,574	927	11,502	—	11,502
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	134	134	△134	—
計	10,574	1,061	11,636	△134	11,502
セグメント利益	266	189	456	△0	456
セグメント資産	5,688	2,468	8,156	620	8,777
その他の項目					
減価償却費	75	38	113	—	113
のれんの償却額	52	—	52	—	52
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	50	35	85	—	85
のれんの未償却残高	140	—	140	—	140

- (注) 1. セグメント利益の調整額△0百万円は、セグメント間取引消去等であります。セグメント資産の調整額620百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、報告セグメントに帰属しない余資運用資金(定期預金)、長期投資資金(投資有価証券)に係る資産等であります。
2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸料収入等が含まれております。

当連結会計年度(自 2025年8月1日 至 2026年7月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額
	ウェルネス 事業	ロジスティクス 事業			
売上高					
顧客との契約から 生じる収益	10,189	272	10,462	—	10,462
その他の収益(注) 2	—	679	679	—	679
外部顧客への売上高	10,189	952	11,141	—	11,141
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	3	3	△3	—
計	10,189	956	11,145	△3	11,141
セグメント利益	127	184	311	—	311
セグメント資産	5,063	2,452	7,515	1,096	8,612
その他の項目					
減価償却費	77	38	115	—	115
のれんの償却額	31	—	31	—	31
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	72	21	94	—	94
のれんの未償却残高	94	—	94	—	94

- (注) 1. セグメント利益の合計額と損益計算書の営業利益は一致しているため、調整額はありません。セグメント資産の調整額1,096百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、報告セグメントに帰属しない余資運用資金(定期預金)、長期投資資金(投資有価証券)に係る資産等であります。
2. その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸料収入等が含まれております。
3. ウェルネス事業において、収益性の低下により、のれん14百万円、ソフトウェア17百万円の減損損失を計上しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2024年8月1日 至 2025年7月31日)	当連結会計年度 (自 2025年8月1日 至 2026年7月31日)
1株当たり純資産額	1,507円29銭	1,523円27銭
1株当たり当期純利益	84円09銭	52円34銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年8月1日 至 2025年7月31日)	当連結会計年度 (自 2025年8月1日 至 2026年7月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	358	223
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属 する当期純利益(百万円)	358	223
期中平均株式数(千株)	4,265	4,271

(重要な後発事象)

該当事項はありません。